



2024年7月26日

日本鉄道労働組合連合会

## J R 東海ユニオン「第33回定期大会」

# 『UNION FUTURE ⇒2027』に基づく運動の更なる飛躍を!

J R 東海ユニオンは7月4日、静岡市内において第33回定期大会を開催し、7年目となる中期目標『UNION FUTURE ⇒2027』に基づく2024年度の運動方針を確立した。

冒頭、主催者挨拶に立った尾内裕昭中央執行委員長（J R 連合副会長）は、コロナ禍の収束に伴う移動需要の回復に応え、J R 東海が2024年3月期決算を上方修正するに至ったのは、ひとえにJ R 東海ユニオン組合員の日々の精励によるものだとの謝意を示した。その上で、変化が大きい時代ではあるものの、強固な労使関係のもと、安全の追求や組織活動の活性化、労働条件の向上に取り組んでいくことは不変であり、「7年目となる中期目標『UNION FUTURE ⇒2027』に基づく全員参画の運動を『ONE TEAM』で前進させよう!」と力強く訴えた。

J R 連合からは荻山市朗会長と政所大祐事務局長、相良夏樹組織局長が参画。代表して挨拶に立った荻山会長は、労働力不足の問題に触れつつ、J R 産業が労使ともに一体となれていない課題に言及し、その総結集を図っていくためにも、J R 東日本の社友会に関連する労働基準関係法制の見直し、J R 北海道やJ R 貨物の経営自立など政策分野での課題解決に邁進していくことへの理解・協力を求めた。J R 東海からは武田健太郎副社長と小峰宏夫人事部勤労課長が出席し、代表して武田副社長は、6月に労使で妥結した人事・賃金制度の改訂について、労使で真摯な議論を積み重ねてきたからこそできたものであると謝意を示し、「労働力不足や自然災害の頻発など変化が大きい中でも労使でしっかりと協力して乗り越えていきたい」と挨拶した。



意見が出された。また、2025年春に実施予定の静岡市議会議員選挙への立候補を決断した牧野祥有代議員（写真左）からは必勝に向けた決意表明があり、満場の拍手でこれが支持された。

執行部答弁後、総括答弁に立った今井孝治書記長は、人事・賃金制度の見直しに触れ、労働組合の必要性について改めて言及し、「我々は責任組合として日々の地道な取り組みをしっかりと進めていこう」と呼び掛けた。答弁も含めた各議案は満場一致の承認を受け、最後は尾内中央執行委員長が団結がんばろうで大会を締め括った。

